

本を通じた交流・対話ワークショップについて（令和8年2月21日に開催しました）

今回は、まちなかでの交流を疑似体験

**本の魅力・
対話の楽しさを
共有しよう**

■ 広報ポスター（開催概要）

「本のある場」から考えるはだのミライ
本を通じた交流・対話ワークショップ
2月21日（土）午後2時～午後4時30分

本を通じた学びや対話、交流が生まれる場を創出するため、
読書体験を共有しながら、本のある場について考えます。
本がもつ身近になる場について一緒に考えてみましょう。

テーマ1
読書対話「本の向こうに何がある？」
テーマ2
本のある場を考えよう！

定員 30名（申し込み先着順）
場所 桑野市立図書館 講堂
申込方法 桑野市役所桑野駅北口にさかい郵便局まで電話または
メールでお申込みください。

問い合わせ 桑野市役所桑野駅北口にさかい郵便局
電話：0463-82-9615
mail: h-e-k@city.machinaka.kanagawa.jp

ワーク1 - 「本が持つ『力』」ってなんだろう？～本を使って思考をひろげる『読書対話』～



ワーク1は、あたらしい桑野のまちなかで起こる交流を疑似体験。
本を使った対話の楽しさを共有しました。

【本の向こうに何がある？】という問いから対話をスタート。
4～5人のグループで、短時間でそれぞれ異なる本を読んで得た
「気づき」を共有するプログラムを行いました。

問いと対話を総括し、参加者に本が持つ「力」を考えてもらいました。
全体で **96個** の本が持つ「力」を発見しました。



ワーク2 - 読書や対話が楽しくなる場を考える



ワーク2では、新たな「多世代交流施設」の中の本のある空間の
イメージを具体的に膨らませました。

ワーク1で考えた「本が持つ『力』」を最大限にひきだすためには
場にどんなひと・もの・こと（要素）、ルール、雰囲気があったら
よいか、アイデアを膨らませました。

参加者が思い思いに考えた **17のアイデア**と、

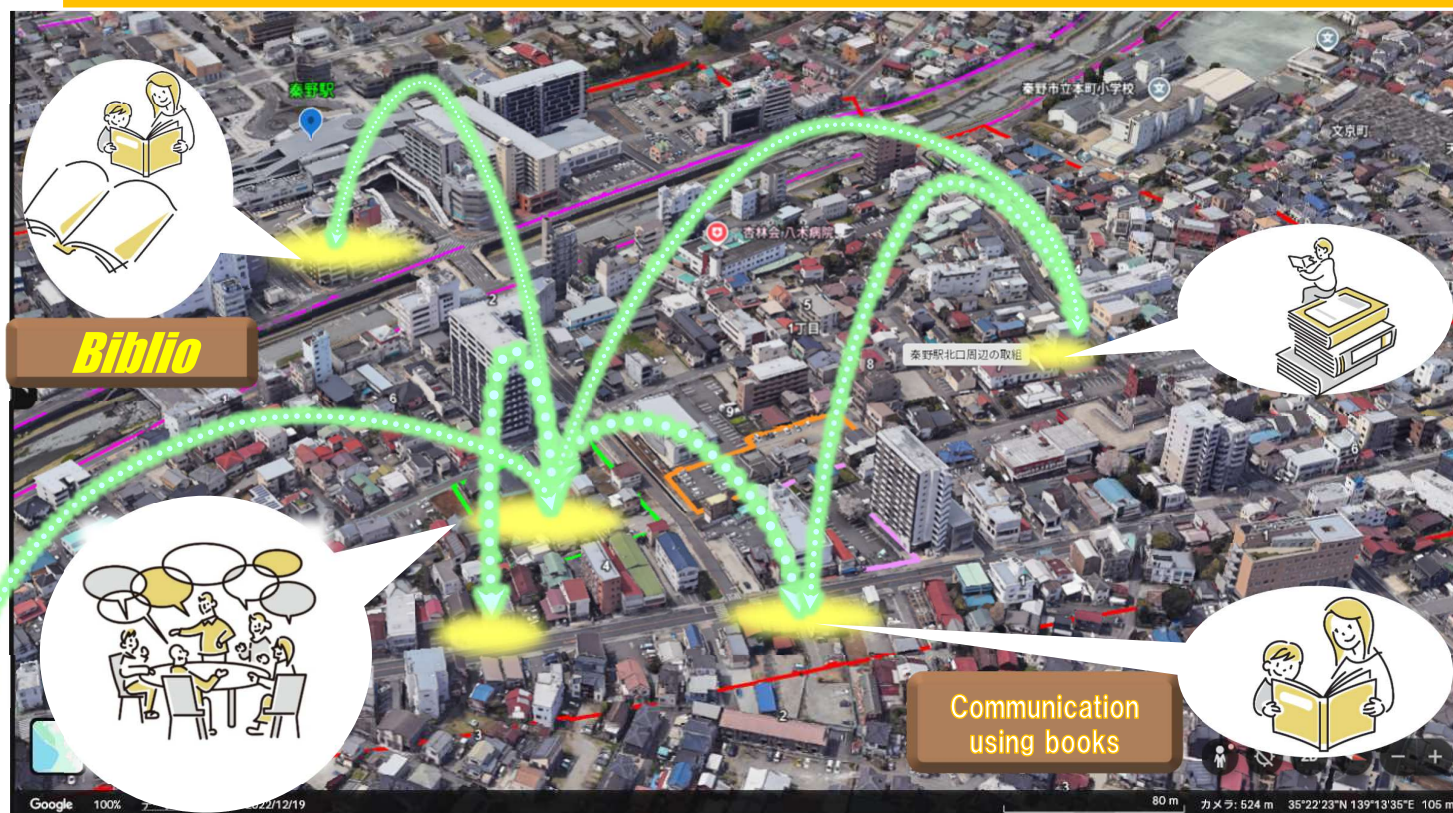
グループごとの個性が光る **4のアイデア** が生まれました。



参加者のアイデア創出を助ける「ヒントカード」▲

まちなかに文化的な交流の場の創造

本をきっかけに、まちなかで多くの人が対話し、交流できる場を増やしたい



本を通じて、人とまち、暮らしに豊かさを

ワークショップ参加者が思う『本が持つ力』を要素別にまとめました（令和8年2月実施）

■ 参加者による「本が持つ『力』」の抜粋 -①-

【分類Ⅰ】 本には「静」と「動」がある

- 安心・安らぎ 安心、心の安定、いやされる、心が安らぐ、落ち着く、眠れる
- リセット 静、立ち止まる、他のことを忘れられる、敬虔
- 高揚感 ときめく、弾む、のぞける、ちょっと笑える、楽しい、ワクワクする

【分類Ⅱ】 世界をみる眼がアップデートされる

- 視点の拡張 新しい視点、意識してなかったものごとくに目がいく、逆の視点（想定外）、価値観
- 想像と創造 本の世界を創造、自分の世界がつかれる、未知の世界につれていってくれる
- 知恵と学び 知識が広がる、知恵、知らない漢字に会える、脳を刺激する

【分類Ⅲ】 つながりや共感のメディアになる

- 共感の広がり 共感、他者と一緒に泣ける、遠くにいる人と同じ考えができる、他人の経験を味わえる
- 交流の種 つながり、仲良くなれる、話の種、プレゼントしたくなる、人に話したくなる

【分類Ⅳ】 未来へ向かう背中を押してくれる

- 励まし 支え、励まされる、頑張れる、自分の背中を押してくれる、自信がつく
- 未来のヒント 答え、自分の未来のヒント、明日がわかる、切り開ける

【分類Ⅴ】 探求とアウトプットをやってみたくなる

- 知的ソワソワ感 疑問と答え、連想する、先が気になる、ひざを打つ、めくりたくなる
- 衝動の誘発 なにか書きたくなる、まねしたくなる、言葉に力がこもる

【分類Ⅵ】 なぜか身体が〇〇したくなる

- 身体反応 おなかがすく、眼がつかれる、よふかし、視覚を刺激する
- 日常への接続 時がとける、ひっこしが大変になる（※本を愛するがゆえの悩み）

頻出ワード分析

よく出た言葉を大きく表示しました



*同義語の統一処理を行った分析では、
①読む ②対話 ③出会い ④落ち着く ⑤集まる ⑥自然・景色 ⑦子ども ⑧カフェ・飲み物 上位になりました。

カテゴリ分析

言葉の種類を分類しました



■ 行為 をあわす言葉 58語

読む、話す、対話、集まる、体験、紹介、考える、選ぶなど

■ 空間 をあわす言葉 46語

森、自然、景色、屋上、庭園、テーブル、カフェ、畳、ソファ、小空間、丘 など

■ 感情 をあわす言葉 29語

安心、落ち着く、ワクワク、楽しい、共感、励まされるなど

グループワークによる『本のある場』の検討結果とコンセプトの考察（令和8年2月実施）

発表シート

発表内容(要約)

（▼こんな空間にしたい！）
人と人、本と人、人と自然がつながりあう施設になるといい。森や丘のほかに、カフェスペースの意見も。この町には外国の方も多いため、集まって、つながりを持てる場所づくりというのがこのチームの総合的な意見だった。

（▼対話の経緯）
ワーク1で読んだ『毎日読みます』という本の、「図書館は長居せずに借りて帰りたい。なぜなら寝転がって読みたいから。」という文が目に止まり、だったらゆっくり転がれるスペースが公共施設にあればと思いつき、（他の施設でも見聞きたことがある）「丘」という意見を出した。そこから対話が膨らみ、さらに「森」もいいためであった人がいたのでこのような宣言文ができあがっていた。

小まとめ：グループ対話から見たコンセプト
人々が自然に交わり合える「集いの場」／滞在そのものが目的となること／身体的にも多様なふるまひのできる多機能な空間／森（静謐）と丘（解放的）の両面性

発表シート

発表内容(要約)

（▼こんな空間にしたい！）
ワーク1で触れた内田樹著の本にあった、「図書館は敬虔な場」という言葉から、人類の知の壮大な蓄積に圧倒される図書館の空間というのは、大切な場所だと感じた。一方、本をベースに、様々な人が出会ったり、くつろいだり。そうして新しい自分を発見できる新しい空間とも捉えた。

キーワードの「融合」とは、この施設に老若男女様々な属性の「人」が、集中していたりお菓子を食べたりお話をしていたり（「行為」）が混ざっていること。また、分類の工夫や、絵本とビジネス書が交わるような3冊選書棚など、関心を飛び越えて、本と出会う工夫が欲しい。海外書は、原著で読めるのもいいし、外国の方との交流のきっかけにもなる。量に寝転がれる、川などの自然が味わえる景色の良さなどのリラックス要素も取り入れた。

小まとめ：グループ対話から見たコンセプト
フィルターバブルよりセンディビリティ／「ジャンルの越境」による新しい知のスタイル／「静寂」と「賑わい」が両立する空間デザイン／心理的ハードルの低い寛容な空間

発表シート

発表内容(要約)

（▼こんな空間にしたい！）
キーワード「森野」とは、森野の自慢の豊かな自然景色（富士山がみえるのがいい！）が望める建築で、イスなどの家具も森野の木材から生まれていたら嬉しいという思い。「自然」とは、森野の食材が週1回で販売されていてほしい。「食」とは、カフェのメニューにわくわくするものがあってほしい。

（▼起こしたい具体的なシーン）
カフェで食べられたら素敵なのものは、ぐりとぐらのパンケーキ。ほかに絵本から飛び出してきたような食べ物や、それらにまつわる絵本を置く。野菜のマルシェでも、傍らに農業や野菜に関する本を置く。また、本の表紙をかくして系統だけ表示し、シークレットで置く案も。様々な方法で、新しい本の縁が生まれる楽しい空間になるといい。

小まとめ：グループ対話から見たコンセプト
土地のアイデンティティを生かした郷土の魅力あふれる空間／五感で楽しめる体験型施設／仕事や食などの「生活」から「知」へとつながるプロセス／遊び心とワクワク感

発表シート

発表内容(要約)

（▼こんな空間にしたい！）
素敵なお話を聞いた。ベッド、ソファ、椅子などで本の読み聞かせが行われている良いシーン。自宅のようにリラックスできる場所として、「ほぼ家」というワードが自然に立ちあがった。ワーク1でも、本を読む環境についてあげる意見が多かった。やすらぎ、靴を脱ぎたくなる、寝転がってみたいなど、など。

（▼この施設でやりたい！）
楽しさ・わくわく感といった明るいつもりの感情と、知識が豊富になる、人の経験を味わい想像したくなる、真似したくなるなどの本の効能も意見があがった。知識や自信をつけることで、自分を否定せずに大事にできるようになる場所。そうした効果が周りの人、その場に出会った人にも広がるような、例えば「褒め合う」などの温かなプロセスのある施設になるといい。

小まとめ：グループ対話から見たコンセプト
自己肯定から他者への承認が生まれる、心の安全基地／無防備になれる圧倒的な居心地／「読み聞かせ」に象徴されるような人と人の温かなふれあい／純粋な知的好奇心